

第4問 (20点)

委露破須製作所では、実際個別原価計算を採用している。以下の [資料] にもとづき、各問に答えなさい。

[資料]

1. 指図書別の製品製造データ

指図書番号	直接材料費	直接労務費	直接作業時間	備考
#101	290,000 円	480,000 円	600 時間	6/15 製造着手 6/24 完成 7 /2 販売
#102	60,000 円 (6月分) 188,000 円 (7月分)	96,000 円 (6月分) 312,000 円 (7月分)	120 時間 (6月分) 390 時間 (7月分)	6/21 製造着手 7/ 3 完成 7/ 5 販売
#103	310,000 円	488,000 円	610 時間	7/ 6 製造着手 7/11 一部仕損 7/21 完成 7/22 販売
#103-2	29,000 円	40,000 円	50 時間	7/12 補修開始 7/15 補修完了
#104	276,000 円	464,000 円	580 時間	7/20 製造着手 7/26 完成 7/31 在庫
#105	63,000 円	104,000 円	130 時間	7/27 製造着手 7/31 仕掛

なお、#103-2 は仕損が生じた#103 を補修して合格品とするために発行した指図書であり、仕損は正常なものであった。

2. 製造間接費は、直接作業時間を配賦基準として各製造指図書に予定配賦している。年間の製造間接費予算額は 20,400,000 円、年間の予定直接作業時間は 24,000 時間である。7月の製造間接費実際発生額は 1,520,000 円であり、月次損益計算書においては、製造間接費の配賦差異は原価差異として売上原価に賦課する。

問1 7月の仕掛品勘定と月次損益計算書を作成しなさい。

問2 製造間接費の予定配賦額と実際発生額の差額について、上記の予算を用いて予算差異と操業度差異を計算しなさい。不利差異または有利差異のいずれかを○で囲むこと

第 5 問 (20点)

福岡工業では、製品 S を製造・販売している。これまで全部原価計算による損益計算書を作成してきたが、販売量と営業利益の関係がわかりにくいため、過去 2 期分のデータをもとに直接原価計算による損益計算書に作り替えることとした。次の [資料] にもとづいて、直接原価計算による損益計算書を作成しなさい。

[資料]

1. 製品 S 1 個当たり全部製造原価

	前々期	前 期
直接材料費	？ 円	？ 円
変動加工費	550 円	560 円
固定加工費	840 円	？ 円
合 計	？ 円	？ 円

2. 固定加工費は前々期と前期は同額であり、各期の実際生産量にもとづいて実際配賦している。

3. 販売費及び一般管理費 (前々期・前期で変化なし)

(1) 変動販売費 150 円/個 (2) 固定販売費及び一般管理費 ? 円

4. 生産・販売状況 (期首・期末の仕掛品は存在しない)

	前々期	前 期
製品期首在庫量	0 個	0 個
製品生産量	1,500 個	1,200 個
製品販売量	1,500 個	1,000 個
製品期末在庫量	0 個	200 個

5. 全部原価計算による損益計算書

	前々期	前期
売上高	4,500,000 円	3,000,000 円
売上原価	2,535,000 円	1,930,000 円
売上総利益	1,965,000 円	1,070,000 円
販売費及び一般管理費	575,000 円	500,000 円
営業利益	1,390,000 円	570,000 円